



様式第1号



2021年12月16日

真庭市議会
議長 小田康文 殿

真庭市議会議員 西田文子 (印)

調査研究、研修会、~~要請~~・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

- | | | |
|---|--------------|--|
| 1 | 区 分 | 調査研究 研修会 要請 ・陳情活動 |
| 2 | 訪 問 先 | 真庭バイオマス集積基地第二工場
真庭バイオマス発電所
銘建工業(株)CLT工場 |
| 3 | 内 容 | バイオマスツアーに参加 |
| 4 | 行 程 | 別紙のとおり |
| 5 | 事務局から訪問先への依頼 | 必要 <input type="radio"/> 不要 <input checked="" type="radio"/> |

(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。

『真庭市SDGsツアーオーダーメイドツアー』予約確認書

この度は、まにわを知らう！バスツアー『真庭市SDGsツアー』にお申込みいただきありがとうございます。

下記、予約内容をご確認ください。ご利用当日に、この書面を必ずご持参ください。

代表者様より、バス運転手へ乗車前に確認書をお見せください。

また、体験・見学施設などの立ち寄り先にも同様に到着時にお見せください。

お客様の情報			
申込者様	真庭市議会議員		14人(大人14人、小人0人)
当日代表者名		携帯番号	TEL:0867-42-1272
ご連絡先	住所	〒719-3292 真庭市久世2927-2	

バス手配内容			
利用日	2021年12月20日(月)		
ご利用時間	13:30~16:15		
送迎バス会社	落合観光バス	運転手	
		携帯番号	
バス種類	小型バス		
添乗員	真庭観光局スタッフが1日ご案内します		
添乗員合流場所	真庭市役所		
行程表	⑤真庭市役所本庁舎【集合・出発】(13:30・13:30) == ①真庭バイオマス集積基地 第二工場【見学】(13:40~14:20) == ②真庭バイオマス発電所【見学】(14:30~15:10) == ③銘建工業(株) CLT工場【見学】(15:20~16:00) == ⑥真庭市役所【解散】(16:15)		
昼食会場	なし	TEL	
		住所	
		時間	

※飲食代は自己負担となります。

注意点事項のお知らせ	
代表者様	・ツアー内容は、交通事情や当日の天候により変更になる場合がございます。雨天決行致します。但し、警報が発令された場合は、ツアー中止の場合もあります。 ・旅行条件書をお送りいたしますので必ずご一読ください。 ・バス車内では、シートベルトの着用をお願い致します。 ※幹事様で各先の立ち寄り先の終了時間を気にかけていただき、スムーズなご移動をご参加の皆様へ促してください。
服装・持ち物について	・動きやすい服装、体験を希望の団体様は、汚れても良い服装でお越しください。また、現場は足元が悪い場所もございますので歩きやすい靴でお越し下さい。 ・熱中症対策として、水分などご持参ください。 ・カッパ及び傘などの雨具は各自でご準備ください。 ・必ずマスクをご持参ください。お持ちでない場合はご乗車をご遠慮いただく場合もございます。
変更について	※予約確認書発行後の人数変更などにつきましては、真庭観光局と予約施設の担当者へのご連絡をお願い致します。連絡のない場合は、本書の人数による請求額となりますのでご理解の上、ご了承ください。 《変更時の流れ》 ①真庭観光局へ電話 [TEL:0867-45-7111] ※土日祝、当日の連絡先:090-2001-3099 ②宴会予約先の飲食店へ電話(上記連絡先)

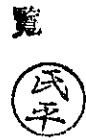
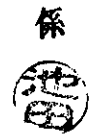
■お問合せ先 一般社団法人 真庭観光局(担当:森脇・藤田) 〒717-0013 岡山県真庭市勝山654	TEL:0867-45-7111 FAX:0867-44-3002 ※土日祝、当日の緊急連絡先:090-2001-3099
旅行企画・実施:一般社団法人真庭観光局 岡山県知事登録旅行業第2-367号(全国旅行業協会正会員)	

令和3年12月20日 SDGsオーダーメイドツアー 参加議員名簿

参加者名	
○ 西田 文子	○ 妹島 弘和
○ 伊賀 基之	○ 森田 敏久
○ 黒川 愛	○ 大月 説子
○ 浅野 和昭	○ 伊藤 義則
○ 吉原 啓介	○ 加藤 大悟
福島 一則	氏平 篤正
○ 柴田 正志	○ 森脇 正和

以上14名参加

様式第2号



報告書

令和3(2021)年12月20日

真庭市議会議長 小田康文 殿

報告者(代表) 真庭市議会議員 氏名 西田文子[Ⓜ]
(別紙に参加者名簿を添付いたします。)

下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会・要請陳情活動をいたしましたので、その結果を報告いたします。

1 日時	自 令和3年12月20日(午前・午後) 1時30分 至 令和3年12月20日(午前・午後) 4時15分
2 場所	真庭バイオマス集積基地 第二工場 真庭バイオマス発電所 銘建工業(株) CLT工場
3 用件	バイオマスツアーに参加 まにわを知ろう!バスツアー『真庭市SDGsツアー』 真庭観光局 スタッフ(森脇さん)の案内
4 概要	まにわを知ろう!バスツアーに、「緑真会」西田と森脇が発起人となり、計12名で参加した。(14名の予定だったが当日2名不参加) 真庭観光局スタッフの案内で施設を回り、それぞれの施設で担当者から説明を受けた。このツアーは、コロナ禍で県外からの観光が減少したことから昨年からはじめ、県内や市内の方から喜ばれているということだ。SDGsの取り組みともマッチし、県内の修学旅行先としても選ばれているため、多い時には、1か月1000人の申し込みがあったそうだ。見学先としても30か所もあり

報告書（継紙）

何回も利用してもらえるツアーとなっている。他のツアーにも参加してみたいと思うし、他の企業からも手を挙げてもらい増えて行くと利用も増えると思う

・真庭バイオマス集積基地 第二工場 担当者：樋口さん

集積基地に集まってくるものは、市内のものばかりでなく、県外からも来るほど、多くの方に利用してもらい、産廃となっていたものが価値あるものに変化することで、木を大切に使い切ることができている。チップは発電に使われるだけではなく、製紙工場にも販売され、木の皮や枝葉も発電と畜産農家さんにオガクズの代替品として販売したり昭和化学は皮だけでも購入してくれる。

・真庭バイオマス発電所 担当者：長尾さん

水を蒸気にしてタービンを回すことで発電している火力発電所。春と秋に点検のため止めるが、あとは330日24H/日稼働している。山に残った未利用材に、再生可能エネルギーとして価値が生まれ、山主にも還元され関係業者も他の搬入材よりも利益が多いので、林業の活性化へ繋がる。

・銘建工業（株）CLT工場 担当者：山本工場長・草加さん

CLTは地震や火災に強く、断熱性があり施工が簡単というメリットがある接着剤には日本製のものを使っている。材料が杉を使っていて、日本では外国より早く育ち、20～30年でいいので、建築材としてあまり使われていない杉が使えるということだ。CLT建築が広まらない理由が、施工者と設計者が少ないため伸び悩んでいる。CLTは集成材業者ならどこでも作れるのだが、需要がないことで作る企業も増えない。大学で林業に携わる勉強をする学生を増やすことが将来の林業を救うことに繋がるのでは！

集積基地に一般の方も木を無駄にしないよう持ち込みを増やし、発電所から出る灰は処分費がかなりかかっているため、重金属を何とかして再利用して、灰にも価値が生まれる方法はないのか、CLTの需要を増やすため、各県が出す県産材補助金を国産材というくくりにしてはどうかなど、いろいろ考えさせられることがあった。これから、バイオマス発電所は増えて行くので、燃料となる木材が減っていくことが懸念される。市民に山の管理をしてもらえる方策を市としても考えることが重要と思われる。

加藤大悟議員

真庭バイオマス発電所に真庭市が出資する時を思い出した。

どの視察場所も危険を伴う現場で働く従業員の皆さんに感謝です。

バイオマス真庭を実感した。

浅野和昭議員

真庭バイオマス集積基地、真庭バイオマス発電所、銘建工業を訪れたことによって自然エネルギーの活用方法や仕組みを、より具体的に学ぶことができた

妹島弘和議員

初めての視察で、集積基地や発電所の規模の大きさに驚いた。集積基地の木を余すところなく資源として利用しようという思いと、業者だけではなく山主への還元を考えている姿勢に感銘を受けた。これもある意味「回る経済」かと思う。半面、未利用材や一般廃材の買取価格が高いため、発電所の燃料単価も比例して高いつている。

発電所も22,000世帯をカバーできる能力があるのだから、真庭市内の全世帯が安価にその電力を利用できたら素晴らしいと思う。

柴田正志議員

木材の回る仕組みを全国に先駆け構築していることは、真庭のほこりと改めて思った。

大月説子議員

真庭市の産業の23%が林業関係者と聞いている。この産業は真庭市の誇りでもあるが、木材に付加価値を付けて世界に売り出していくことが必要だ。

山や製材所で働く労働者の確保のみならず、販売ルートの開拓や木材建築の構造計算が出来る人材の育成や確保が急務だ。イノベーションを起こすためには、その領域に精通した人材を真庭に抱え込み、林業関係者がチームになることが大切。そういった意味では林業バイオマス産業に多くの林業関係者が参加

しておられ、すでに林業関係チームが出来ていることが素晴らしいと思った。

森脇正和議員

バイオマス集積基地・バイオマス発電所は、木を使い切るという施策は、素晴らしいと思う。CLT工場は、意外にも県産木材の使用割合が低いことに驚いた。今後、これらの施設がますます充実し、真庭の山林の整備が進み循環する森林（産業）にして行って欲しい。

黒川愛議員

木とともに働くことは大変魅力的なことだと改めて実感した。時間をかけて培った仕組みや高度な技術を目の前で見ることができた。バス内や各施設では大変丁寧な説明をして頂き、「SDGs 未来杜市真庭」について勉強になった。

施設の説明については、素晴らしい施設と仕組みと働く人達なので、ツアー参加者の満足度は決して低くないと思う。録音の音声ガイドや録画媒体（ビデオ）があれば助かる部分もあるのではないかと思う。でも、今回のように、しっかりとした生の声で、想いのこもったハイレベルな説明を各所で聞けることが地域の魅力を引き上げ、参加者満足度のプラスになり、『真庭ってやっぱり凄いんだな』の『やっぱり』につながり、他の地域との差につながるのだと思った。とは言え、主催の真庭観光局に伺うと、訪問施設への謝礼は些少だと聞いた。参加者だけでなく、施設の方々にもしっかりと満足してもらえる、些少ではなくしっかりとした謝礼が支払えるツアーづくりや支援を願う。

吉原啓介議員

一方で、維持のためのコスト、消費されている化石燃料の量は少しきになるグリッドの整備も今後の課題かと思う。

森田敏久議員

森林の成長を計算しながら木材を使い切る取り組みは究極の持続可能なSDGs と思う。また、雇用の確保も忘れてはいけないと思う。

伊藤義則議員

CLTのコストを低減させるのは、国の政策との戦いと感じた。付加価値のある商品を作り海外の評価を上げることが国内のシェアを高めることが出来ると思う。ぜひ頑張ってもらいたい。

バイオマス発電の仕組みはすごいと感じた。もっと勉強したい。

伊賀基之議員

ツアーと言うだけあって、コースも説明もイヤホンも良かった。真庭で最初にバイオマス発電を思いついた人はすごいと思う。廃棄物がエネルギーになるわけだから、環境問題への貢献は大きいと思う。やはり問題は、コストで、32円を買ってもらえるから出来るという面もある。理想は市内一般家庭まで配電できるようになればということ。今後他の自治体も同様の取り組みを始めれば燃料となる木材等の安定的な確保も課題になると思うが、真庭の先進性を示す素晴らしい事業だと思う。CLTも課題は示されましたが、木材の未来を作る取り組みだと思う。大変学ぶ事も多い視察だった。

〈別紙〉

令和3年12月20日
まにわを知ろう！バスツアー

参加者名簿

真庭市議会議員

伊賀基之・黒川愛・浅野和昭・吉原啓介・柴田正志・妹島弘和
森田敏久・大月説子・伊藤義則・加藤大梧・森脇正和・西田文子

以上12名

